令和８年度福岡県学力・学習調査の結果について

勝浦小

1．福岡県学力・学習調査の目的

〇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童の学力の状況をきめ細かく把握・分析し、教育及び教育施策の成果と課題の検証・改善を図ること。

〇各市町村教育委員会、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、改善を図ること。

〇児童の学力の状況を把握し、児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てること。

2．福岡県学力・学習調査の内容・実施時期

調査対象	第５学年	実施期日	令和８年５月 18 日
調査内容	〇教科に関する調査：【国語】【算数】【質問紙】		

3．福岡県学力・学習調査（５年生）の結果

(1)　各教科の平均正答率

本校の平均を県と比較すると、国語・算数とも福岡県とほぼ同じです。

国語においては、「話すこと・聞くこと、書くこと」に苦手さがあり、「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる」ことや「話の内容を明確に伝える」ことなどに課題がありました。算数においては「データの活用」「変化と関係」に苦手さがあり「ある二つの数量の関係から、別の二つの数量の関係を割合を用いて考察すること」や「複数の棒グラフを組み合わせたグラフから、データの特徴をとらえること」に課題がありました。

(2)　児童質問紙の主な回答状況

本年度の学校の重点目標「自己表現を核に、非認知能力を土台とした主体的に学ぶ子供の育成」に関係する主な項目について

- 「自分には、よいところがあると思いますか」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は福岡県と比べて下回っています。
- 「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は福岡県と比べてほぼ同じです。
- 「話を聞き、自分の考えを伝えることができますか」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は福岡県と比べて下回っています。
- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は福岡県と比べて下回っています。
- 「学習を振り返り、次の学習につなげることができている」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は福岡県と比べてほぼ同じです。

(3)　今後の学力向上の方策

今後の学力向上のための取組として、本校では、少人数のよさを生かし、一人一人の得意なことやつまずきを丁寧に把握するとともに、調査結果を全教職員で共有し、全学年の授業改善と個に応じた指導・支援に取り組みます。

① 教科の調査結果を踏まえた取組

国語では、相手の話の要点を捉え、自分の考えと比べながら聞く活動や、理由や根拠を明らかにして自分の考えを話したり書いたりする活動を充実させます。

算数では、表やグラフから必要な情報を読み取る活動や、数量の変化や関係を図・表・式などで表し、考えたことを説明し合う活動を通して、理解の定着を図ります。

② 児童質問紙の結果を踏まえた取組

児童が自分のよさや成長を実感できるよう、一人一人の努力や工夫、挑戦する姿を具体的に認め、伝えることを大切にします。児童会活動や異学年交流などでも、自分の力を発揮し、人の役に立つ喜びを感じられる機会を設けます。

また、主体的に学習に取り組めるよう、自分の考えをもつ時間を確保し、課題や学習方法、表現方法などを選ぶ場面を設けます。友達の話を聞いて自分の考えと比べたり、分からないことを問い返したりする活動を通して、互いの考えを理解し、伝え合う力を育てます。

さらに、互いの考えや挑戦を認め合い、失敗を恐れずに取り組める学級づくりを進めます。学習の終末には、できるようになったことや、まだ分からないこと、次に取り組みたいことを振り返り、自ら次の学習につなげられるよう支援します。

ご家庭におかれましても、結果だけでなく、お子様の努力や工夫に目を向け、「ここを頑張ったね」「こんなことができるようになったね」など、具体的に認める声かけをお願いいたします。学校と家庭が連携し、お子様の自信と学習意欲を育んでいきます。

学力調査の結果は全ての学力を示すものではなく、学力の特定の一部です。この結果を生かし、本校の重点目標である「自己表現を核に、非認知能力を土台とした主体的に学ぶ子供の育成」の達成に向けて、取り組んでまいります。